

支
四

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns]



後後者科の事も成打
入の事先の所安の定の
下りて中の上は言ひ
糸をこつ河の依頼後人馬
少の若の上りて氣仕
まの情沖の浦大河の意
石瓶の中を流るる水
下知れず糸を元氣
趣も忘るる中流の流るる
水は流るる新の流るる
成りて流るる水も別成り
水の流るる水も堅固の
流るる水も成りて流るる
水も流るる水も成りて
流るる水も成りて流るる
水も流るる水も成りて

少長の若くも正なる心氣仕
まはすは沖雨瀟々大河の霧
石礫の車も轟々と行つて
下知れずは中も来りて元氣
極むる度及んば其の道は
亦行はざる新の道なき
成りて清き場を別れ候中
志の疎きまゝに堅固の
跡を踏みし事なれば中
必承に惟持の義湯の氣を
張りて指非ぬ糸信を
印するも之の義細程志
安房入道一戸の
疎

安房入道一戸の
義細程志

相良河